

論文の内容の要旨

論文題名

Patient- and Therapist-related Risk Factors for Adverse Events in Acupuncture and Moxibustion in Japan: Multi-center Survey of Acupuncture and Moxibustion Teaching Clinics.

(鍼灸有害事象に対する患者および施術者のリスク因子の検討 ―鍼灸師養成学校附属施術所での多施設共同調査―)

掲載雑誌名

Medical Acupuncture. (掲載号未定)

医学研究科 社会医学系 衛生学公衆衛生学専攻 博士課程 上原 明仁

内容要旨

【背景・目的】患者と施術者に関する鍼灸の Adverse events (AEs) の発生因子を調査すること。

【方法】診療録からデータを取得した Retrospective study である。対象は 6 ヶ月間に鍼灸施術所 4 施設で鍼灸施術を受けた全患者と、施術を担当した全施術者とした。調査項目は人数、年齢、性別、施術回数、AEs の数・内容、患者の基礎疾患、施術者の臨床年数とした。各群間の比較にはカイ二乗検定を用い、各項目と AEs の関連を調べるために AEs の有無を目的変数としてロジスティック回帰分析を行った。

【結果】患者は 615 名、施術者は 113 名であった。総施術回数 4369 回中に AEs の発生は 421 回 (9.6%) で AEs 数には患者性別間で有意差が認められた ($p < 0.001$)。施術者の施術回数は男性 2141、女性 2228 回、AEs 数は男性 163、女性 258 回であり、AEs の発生数は男女の施術者間で有意差が認められた ($p < 0.001$)。ロジスティック解析では、患者性別 (調整オッズ比: 1.78, [95%CI: 1.39-2.30]) と肝疾患保有患者 (0.40, [0.19-0.84])、臨床年数 (2 年以内と基準として、2-4 年 0.65, [0.48-0.88], 5-9 年 0.62, [0.44-0.87], 10 年以上 0.50, [0.37-0.68]) が有意であった。

【考察】肝疾患患者に対する AEs の有意な低下は、安全性教育が効果的であることが示唆された。臨床年数が増えるほど発生リスクの低下が示唆されたが、過去に同様の報告は見つからず、今回初めて AEs 発生に関して経験年数が要因となることが示された。AEs のリスク因子の新しい知見となったが、AEs の実態把握や発生リスクの精査にはより大規模な調査が望ましく、AEs 報告システムの早期確立が必要だと考える。